



ヨゼフ・アベイヤ司教認可
発行所 福岡司教本部
福岡市中央区浄水通6-28
ヨゼフ・アベイヤ司教本部
編集人 浦川 務
カトリック福岡司教本部
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教本部
定価 1部70円

7月の意向

【教皇の意向】 人命の尊重
【日本の教会】 被造物、地球環境
【教皇の意向のために祈りましょう】

教区創立100周年・3年目のテーマ

「出向いていく教会となる」

ヨゼフ・アベイヤ司教（福岡教区長）



教区100周年ロゴマーク

100周年の
祝いの
準備の歩み

児島教区に、そして大分宮崎両県で大分教区になりました。

3年目のテーマ
「出向いていく
教会となる」

今年7月から「出向いていく教会となる」ことを目指して準備に取り組みたいと思います。このテーマは宣教師の方針の中で次のように説明されています。「弱い立場に置かれていく人々と共に歩み、福音を証し、伝える」と。

具体的
な準備
その他の準備

今後、100周年委員会から様々な知らせが届くと思います。小教区の皆さんとそれらを共有し、積極的に取り組んでいきましょう。そして、来年の7月4日（日）に予定されている感謝ミサに参加できるように準備しましょう。この3年目が恵み豊かな年になりますように。

1891年6月15日に使徒座代理区から司教区に昇格した長崎教区では1927年に大きな変化がありました。3月18日に沖繩を含む鹿児島使徒座知牧区が新設され、7月16日に福岡教区が創設されました。その時から、司教区としての私たちの歩みが始まりました。翌年の1928年に大分と宮崎両県の宣教師はサレジオ修道会に委託され、その後、鹿児島使徒座知牧区は鹿

2年間のシノドス的な歩みの結果として2022年に発表された「福岡教区宣教師の方針」の3つの基本方針を取り上げて準備してきています。1年目は「互いに支え合う交わりの教会となる」。2年目は、「未来に開かれた教会となる」というテーマの中で、青少年の宣教師司牧を活性化

今年7月から「出向いていく教会となる」ことを目指して準備に取り組みたいと思います。このテーマは宣教師の方針の中で次のように説明されています。「弱い立場に置かれていく人々と共に歩み、福音を証し、伝える」と。

今後、100周年委員会から様々な知らせが届くと思います。小教区の皆さんとそれらを共有し、積極的に取り組んでいきましょう。そして、来年の7月4日（日）に予定されている感謝ミサに参加できるように準備しましょう。この3年目が恵み豊かな年になりますように。

福岡教区創立100周年に向けて
かつどう・できごと掲示板

「シノドス的」な教会の歩みを推し進めましょう

2027年7月16日
教区創立記念日まであと

380日

2026年7月～2027年7月
テーマ：出向いて行く教会となる

【教区創立100周年記念バッジについて】

福岡教区の全信徒が心をひとつにして、創立100周年に向けて歩むための「しるし」として記念バッジが用意されました。どうぞバッジを胸に着け、教区100周年に向かう歩みをともに祈り、支え合いながら進んでいきましょう。



福岡教区創立100周年
3年目の歩みミサ・ライブ配信

日時：7月12日（日）10時
場所：カトリック久留米教会
司式：ヨゼフ・アベイヤ司教



この日は各小教区でも3年目の歩みに向けたミサが捧げられます。ライブ配信は上記QRコードからご視聴ください。

福岡教区主催 平和を祈る集い

日時：8月11日（火）（山の日）10時～16時
場所：カテドラル大名町教会 ※4面参照



平成29年7月九州北部豪雨から9年
令和2年7月豪雨から6年

2017年7月、福岡県と大分県に、そして2020年7月、熊本県を中心に九州や中部地方などで発生した集中豪雨により、今なお、悲しみ、不安のうちに生活を送られている方のために祈りましょう。キリストがともにいてくださることを、私たちが証しできますように。

時の話題

山頭神父様の自叙伝上梓

それは今年1月、元職場の後輩からの突然の電話で始まった。「ある神父様が100歳を超え、自分史の出版を希望されているが、担当ライターが病気になるため、聞き書きの仕事を引き継いでもらえないか」。福岡教区で該当する神父様は、あの山頭太郎神父様しかいない。前任のライターの原稿が30歳で終わっているため、あと100歳まで取材の録音の文字起こしをしてまとめてほしいと言う。後日、担当者と久留米市



『信仰と理性と』

内の介護老人保健施設を訪ねた。面会時間が30分と制限される中、表紙や写真、目次、年譜などについて打ち合わせした。いろいろサンプルをお見せしたが、「自分の写真より文章を入れてほしい」とのこと。口絵には100歳を祝う

記念感謝ミサが行われた久留米教会や、司祭叙階70周年祝賀ミサが捧げられた吉塚教会、日向学院やサレジオ会にも写真提供をお願いした。次の課題は年譜だった。「神父様、2回目にローマへ留学されたのは何年ですか？」

教区創立100周年委員会開催
教区創立100周年に向け
歩みを二つに



3年目のポスター

6月14日、大名町教会で教区創立100周年委員会が開催され、5つの専門委員会から準備状況の報告を受けるとともに、記念事業に関する諸事項について審議を行った。典礼専門委員会からは、2027年7月4日に予定されている100周年記念ミサの準備状況が報告された。会場で使用されるオルガンについては、費用や実用性を考慮し、聖歌伴奏に適した機材も含めて再検討することとなった。記念誌専門委員会からは、原稿の9割以上が集まり、編集作業が順調に進んでいることが報告された。今後は誌面

構成、印刷部数、予約方法、配布対象者などについて検討を進め、教会関係者や信徒の声を反映した記念誌づくりを目指す。行事専門委員会からは、記念Tシャツ、ポロシャツ、トートバッグ、缶バッジなどの準備状況が報告された。缶バッジについては、子どもや外国人信徒共同体を含め、より多くの信徒に行き渡るよう追加配布の希望を確認することとなった。

広報専門委員会からは、教区紹介動画や100周年特設ホームページの準備状況が報告され、100周年記念ミサの配信についても検討を進めていることが説明された。養成専門委員会からは、2027年度の年間テーマ「出向いて行く教会」に基づき、各地区・小教区で研修会

を開催するよう呼びかけがあった。審議事項では、来春予定している外部向け講演会の運営方法や、100周年記念ミサに向けた準備体制について協議を行った。記念ミサについては、交通手段、招待者、参加者構成などを検討するとともに、実行委員会を設置して具体的な準備を進めることとなった。また、100周年を広く紹介するためのパネル展示についても提案があり、今後検討していくこととなった。今年7月12日（日）のミサは、各小教区で100周年に向けた3年目の歩みへの意向をもってミサを捧げ、司教メッセージを共有するとともに、信徒が記念グッズを身に付けて参加し、教区全体で100周年への歩みを進めることが呼びかけられている。100周年に向けた準備は、各分野で着実に進展しており、教区全体が心を一つにして記念すべき節目を迎えるための歩みが続いている。



（C）

福岡教区創立 100 周年に向けて



2027 年 7 月 16 日、福岡教区は創立 100 周年を迎えます。教区報では、各小教区や団体、司祭・修道者、信徒が 100 周年に向け取り組んでいること、100 周年への想いなどを募集中。こちらで紹介していきます。

「創立 100 周年」の情報は右記 QR コードからご覧になれます。



踏み出す一步は 神さまの「とき」



待っていた人は…
路上死の方の段ボールに花を

1972 年 12 月 18 日、3 人目の子どもが通う八幡カトリック幼稚園（北九州市八王寺町）のパリ外国宣教会の聖堂で、フランソワ・ドルエ神父様から洗礼を受けて信仰生活が始まりました。

それからは、神父さまの教えをいただいて、聖書の学びや祈りの会、奉仕活動に参加する教会生活を送っていましたが、20 年後試験を受けて、祈るしかない苦しみの中で、神の愛を信じて、ホームレスの人々との出会いに導かれました。

30 年前、夜の公園で、死と隣り

合わせの状態で寝ている方を訪れる運動への参加は、社会問題と向き合うきっかけとなりました。また、そこにはイエス様がおられ、聖霊の導きを体験させられるところでもありました。

2014 年 9 月、福岡教区で 3 日間開催された第 38 回日本カトリック正義と平和全国集会に参加しました。中村彰神父様（黒崎・天神町教会）が実行委員長で、私は、分科会 16 のうち「キリストに出会う～ホームレス支援の現場を訪ねて～」という現地学習会を担当するとともに、事務局会計として大会の運営に加わり、全国から参加された 900 人以上の人々と大会に寄せる熱い思いを共有しました。福岡教区は、ほぼ全小教区から参加されていましたが、「大会で正平協（日本カトリック正義と平和協議会）に偏見を持っていたのが取れた」という参加者の声には、光が差し込むような喜びをいただきました。

そんな励ましと共に、教区のそれぞれの社会問題に関わっている多くの仲間とのつながりをもたらしたこの大会で、踏み出す一步は、神様が招いてくださっている「とき」であり、出向いていけば喜びに満たされると知りました。

天に召されるまで、小さくされた人々と共に歩み続けられることを神に感謝し賛美いたします。

大名町教会 原山 映子

教区全司祭集会

災害に備え教会のつながりを深める

5 月 14 日、旧カトリック神学院で行われた全司祭集会において、「災害対応ワークショップ（研修会）」が開かれ、多くの司祭や教区事務局職員、信徒代表、そして、昨年設置された福岡カリタスのメンバーらが集まった。

講師には、災害時に現地の初期サポートを行うカリタスジャパンの「緊急対応支援チーム（ERST）」を迎え、平時からの備えについて、小教区と教区全体の 2 グループに分かれて話し合った。

小教区グループからは、司祭の一人居住や建物の老朽化といった心配ごとが出された。また「主日のミサ中」の地震で復活のろうそくが倒れ、内陣のじゅうたんが燃えたという過去の事例を基に、避難誘導の役割分担や信徒主体の活動組織づくりを話し合った。

教区内での防災訓練の格差や、信徒の高齢化、外国人コミュニティの増加に伴う情

報伝達の難しさ、さらには教会が所在する地元町内会との平時からの関係構築などの課題も浮き彫りになった。

教区全体グループは、発災直後の動き方を検討した。支援など善意の内容も合わせて事務局に問い合わせが殺到するため、能登半島地震の教訓を生かし、ホームページなどで迅速に「第一報」を発信することや、「小教区→地区宣教司牧評議会→教区本部」という段階的な連絡網を平時から機能させる方針を確認した。また、本部も被災する可能性を想定した代替拠点づくりも上げられた。実務面では、被災した個人への「義援金」と、復興支援活動に使う「支援金」の違いを正しく区別し、正確な会計処理の規定について整理した。

午後 6 時では、報道が減る一方で高齢者の孤立や人口流出が深刻な能登半島地震の今が報告され、仮設住宅のこ

ミューティー支援などが紹介された。東日本大震災から培ってきた「寄り添いと傾聴」による心のケアこそが、カトリック教会の大きな強みであることを全員で再確認した。最後にアベイヤ司教は「命の尊厳」を強調し、プライ

の壁を越えたコミュニ

未成年者等ガイドライン運用促進委員会全国担当者会議 守るべきは組織ではなく人



「セーフガーディング」を紹介する村上神父（左）と、菊地枢機卿（中）、森山信三司教・大分教区（右）

開かれた。2021 年に策定された「未成年者と弱い立場におかれている成人の保護のためのガイドライン」改訂に向け、各教区担当者の意見を集約することが目的だ。事前アンケートでは「理解しやすい」との回答が多い一方、主観的に解釈できる表現には改善が必要との指摘もあった。

梅雨を思わせるしとしと雨が降る中、未成年者等ガイドライン運用促進委員会全国担当者会議が、5 月 27 日、カトリック大阪高松大司教館で

ティーづくりを課題に挙げた。被災者の苦しみ心動かされるという福音の精神を出発点に、物資の備蓄だけでなく、信徒同士や地域とのつながりを豊かに育てていくこと。それが、いざというときに命を守る確かな備えにつながるのだろう。

本サッカーク協会などでも導入されているという。事後対応ではなく、危害が起こる前に対策を講じ、組織全体で「安全の文化」を築く考え方だ。委員長の菊地枢機卿（東京大司教区）は、委員会を今後「セーフガーディング委員会」に改称し、教会の体質改善に取り組みたいと述べた。

日本社会では依然として事後対応が多く、事前予防が本格的に議論され始めたのは 2010 年代後半だという。

教会組織ではなく人を守るという発想は、故フランシスコ教皇が児童虐待事案に関する「教皇機密」を 2019 年に廃止したことに表れている。

日本の「和」を尊ぶ文化や教会の聖職者主義など課題は多いが、大きな方向転換が始まるうとしている。未来のために今、予防に動く「セーフガーディング」は特別な誰かではなく、私たち一人ひとりが考え、担っていくなければならない。

教区セクシアルハラスメント対応 船津亮太神父（光丘教会）

昨年の悔しさを越えて「第 3 位」!

5 月 12 日、西日本の各教区の司祭たちが年に 1 度集い、親睦を深める「西日本司祭団交流会」では、恒例のソフトボール大会が長崎大学医学部グラウンドで開催された。当日は神の恵みを感じる穏やかな天候の中、長崎教区 A・B、大阪高松、大分、広島、福岡の計 6 チームが参加。3 チームずつ 2 グループに分かれ、各組の 1 位が決勝に進む形式で行われた。

福岡教区は A グループで長崎教区 A チーム、大分教区と対戦した。大分戦では開始早々に 3 人のけがが出る苦しい展開となったが、互いに声を掛け合い、最後まで集中力を切らさず勝利した。続く長崎教区 A チーム戦は、息詰まる投手戦となり、両チームとも一歩も譲らぬ展開が続いたが、終盤の一打により惜敗。決勝戦は時間の都合で行われなかったが、長崎教区 A チームと同 B チームが各グループ 1 位となり、福岡教区は総合第 3 位となった。

昨年の初戦敗退から立て直し、今年は大きな手応えを感じる大会となった。勝利の喜びと敗戦の悔しさを分かち合いながらも、最後まで明るく声を掛け合い、真剣なプレーの中にも笑顔があふれていた。同じ使命に生きる司祭同士が、教区の枠を超えて励まし合う恵みの時間でもあった。各教区は距離もあり、日頃なかなか顔を合わせることでできない司祭たちが再会し、兄弟的なつながりと一体感を感じる、実り多い一日となった。来年、大分教区での再会を楽しみにしたい。

金洞完（キム・ドウカン）神父（仁川教区・大名町教会助任）



3 位の賞品を受け取る
中村彰神父と谷口尚志神父

宣教者を送り出す人々の想いに触れた旅



ヴィン教区大神学校前にて
（左から）ティン学生・牧山神父
チュエン神父

た。神学院養成者との会談では、日本のヴィン教区大神学校、修練院、予科と、愛徳姉妹会の修練院を訪ねた。神学生との交流では、学生から日本の社会と教会の実情について次々と質問が出て、関心の高さを実感した。

この旅をとおして、ベトナムの教会とのつながりを直接、肌で感じ取った。ベトナムには、日本の教会に思いを寄せ、真心と犠牲を惜しみがいる。感謝を忘れずにいた。この真心を受け取り、支えるもうひとつの真心になれるか、今、私自身が問われていると思う。

5 月 14 日から 19 日まで、私はファム・バン・チュエン神父（聖ビンセンシオ・ア・パウロ宣教会）とベトナムを訪ねた。ヴィン教区大神学校にヨセフ・グエン・グエン・ティン学生を訪ね、養成者とヴィン教区に対して敬意と感謝を伝えるため、神学院院長とヴィン教区長宛てのアベイヤ司教の書簡を託されている。

今回、ヨセフ・ヴォ・タフォン神学生とティン神学生の家を訪ねた。家族や親族があたたかく迎えてくださった。息子を神と教会のためにささげ、遠い日本に送り出そうとしている家族の思いは、言葉では言い表せない、愛に満ちた真心だった。

旅の後半は、チュエン神父を派遣してくださっている聖ビンセンシオ・ア・パウロ宣教会の大神学校、修練院、予科と、愛徳姉妹会の修練院を訪ねた。神学生との交流では、学生から日本の社会と教会の実情について次々と質問が出て、関心の高さを実感した。

信 Fides
望 Spes
愛 Caritas

聖マリア学院大学・大学院
看護師・保健師・助産師

福岡県久留米市津福本町 422
TEL 0942-35-7271

社会医療法人 雪の聖母会

聖マリア病院
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町 422
TEL.0942(35)3322 FAX.0942(34)3115

聖マリアヘルスケアセンター
〒830-0047 福岡県久留米市津福本町 448 番 5
TEL.0942(35)5522 FAX.0942(34)3306

信仰や理念を共有できる医師、看護師の皆さん
と一緒に働いてみませんか

URL: <http://www.st-mary-med.or.jp/>

不動産全般/売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください

(株)ジャパン・スマイルか
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044 福岡市中央区六本松 4 丁目 9 番 4 号
TEL 092-761-8800
<http://www.iruka-japan.com/>

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事
・RC工事

建築の事なら何でもお気軽にご相談ください

有限会社 森山工務店
ヨゼフ 森山 新太郎
福岡市早良区四箇 1 丁目 15 番 28 号
☎ (092) 811-7265

長崎教会管区青少年委員会 教区を越えた青少年司牧の歩み



18人が参加して青少年の育成を協議

2026年6月4日、カトリック大名町教会で、2026年度最初の長崎教会管区青少年担当者の集まり（年2〜3回）が開催された。福岡教区から6人、長崎教区から7人、大分教区から4人、鹿児島教区から1人の司教司祭、修道者、信徒の計18人が集まり（那覇教区欠席）、各教区の青少年司牧の活動や課題について分かち合った。

2024年から再開した

長崎教会管区の青少年担当者の集まりは、管内で様々な交流を生み出している。2025年4月にはWYDソウルの十字架を迎える集いで協力し、同年9月には福岡・大分教区合同青年キャンプを開催した。今年は、長崎教会管区全ての教区とともに、「長崎教会管区青年キャンプ」を2026年10月11、12両日で計画している。今回、司祭・修道者で構成される準備実行委員会を設置した。テーマを考えながら準備していく。将来、青年たちが主体となつて計画できるような豊かな体験をさせたいと思っている。

大分教区の崔神父は次のように話す。

「管区単位で青少年担当者の集まりを実施しているのは、長崎教会管区だけです。青年キャンプだけではなく、教会学校や中高生会など様々な分野で協力できる体制を5教区の中で広げていくことが

日本カトリック女性団体連盟熊本総会 全ての人をつくる教会の未来



手取教会で開かれた総会の様子

5月26・27日、「第52回日本カトリック女性団体連盟熊本総会」が熊本市の手取教会で開催されました。指導司教を務めるさいたま教区山野内倫昭司教様および参加の神父様方、全国の皆様、そして熊本県の会員、支援者の皆様、合わせて140人余りが集まり、予想を上回る盛会となりました。

開催される予定である。教区青少年委員会委員長 桑原篤史神父（聖アウグスチノ修道会 笹丘教会助任）

「全ての人をつくる教会の未来」をテーマに、交流会や「う」のテーマのもと総会が開かれ、議事進行、世界カトリック女性団体連盟総会報告、各団体の活動報告などがあり、それぞれの取り組みや、新たな課題にも気付かされた。日本や世界が直面している課題に対してどのように取り組んでいくかを考えさせられる報告でした。

2日目の山野内司教様による基調講演「全ての人をつくる教会の未来」では、聖書の言葉を引用しながら、世界の移住・移動者の現在の動きや日本の移民・移住者の歴史を語られました。19世紀末の大規模な海外移住から20世紀以降の受け入れ国としての日本の現在の課題の中で教会はどうあるべきか、講演後の小グループに分かれた「分かち合い」で一人ひとりが意見を出し合い発表しました。

今後の小教区の活動に生かす

カトリック学校基本研修会 教区カトリック学校の使命をともに担うために



午前の部の講師を務めた松尾神父（左）

初夏の暑さを感じられる6月10日、福岡教区カトリック学校基本研修会（※教職員研

熊本 聖母愛児こども園 新園舎祝別式

5月30日、新園舎ホールにおいて祝別式ならびに落成式が執り行われました。ヨゼフ・アベイヤ司教の司式のもと、祈りのうちに新園舎は神にささげられ、私たちは主の豊かな恵みにあずかる時をいただきました。続いて各保育室とマリア像も祝別され、この園が神のいつくしみと聖母の取り次ぎのうちに歩む場として新たに出発いたしました。

本法人は、マリアの宣教者フランシスコ修道会を母体として1899年に創設され、幾多の時代を経ながらも、福音の精神に基づき子どもたちに寄り添う歩みを続けてまいりました。式の中でアベイヤ司教が語られた「共に生きることは喜びであり、希望をもたらす」との言葉は、私たちの心に深く響きました。この園に集う一人ひとりは神に愛されているかけがえのない存在であり、そのいのちそのものが希望のしるしであることを改めて感じます。

これまで祈りと奉仕をもって支えてくださったシスター方、関係者の皆さま、すべての方々に主にあって感謝をささげます。これからも聖母マリアの保護のもと、神の愛を証しする場として歩み続けてまいります。

学校法人
ステラマリス学園
熊本聖母愛児こども園
園長 馬込由紀



「共に生きることは喜びであり、希望をもたらす」と語るアベイヤ司教（左から2番目）

カトリックに歩む」と題して講話が行われた。そこでは、神の似姿である子どもたちを通して学ぶ姿勢や、ともに歩んでくださる「道」としてのイエスに倣うことの大切さが伝えられた。

講話を受けて小グループでの分かち合いが行われた。そのなかでは講話を通じて思い起こされた子どもたちとの関わりや経験や、カトリック学校ならではの子どもを各々が共有していることへの気付きなどが話し合われていた。

午後には上智福岡中等高等学校の梅谷仁教頭から、「カトリック学校で働くこと」と題して講話が行われた。

梅谷氏は、すでにほとんどのカトリック学校の現場から司祭・修道者がいなくなった現在、このミッションを果たしていくためには、一握りの信徒教員がすべてを担うかたちでは長続きしないと指摘した。そのうえで、全教員がイエスの生き方に倣い、一人ひとりを大切に「カトリックの輪」を共有し、かつ他のカトリック学校との協力の輪を広げていくことの重要

午前、笹丘教会出身で現在聖アウグスチノ修道会日本地区責任者である松尾太神父から、「子どもたちとともに

性強調した。この研修会そのものが、そのようなカトリック学校のネットワークをつくる機会となることを、これからも目指していきたい。

福岡教区カトリック学校
教職員研修会事務局
深堀伸一（大名町教会）



☆聖イグナチオ「霊操」の学びと黙想への招き
英 隆 一朗（著）



税込価格1870円

計 報

テレジア
熊谷 シズ子 修道女
シヨファイユの幼きイエズス修道会
6月5日帰天。享年91。誓願生活64年でした。

マリア・イエス
宮澤 みどり 修道女
（聖クララ修道会）
6月17日帰天。享年101。誓願生活75年でした。

帰天されたシスター方の永遠の安息をお祈りいたします。



カトリックの教会葬
共に祈り・共に送る
株式会社
みこころ舎
旧カトリック神学院 旧修道院内
問合せ
050-3032-1333

ド・ロさま
らーめん

Nagasaki Spaghetti
長崎スパゲッティ
Since 1883

株式会社サンフリースド・ロさま麺工場
長崎市西出津町2528-1
TEL(0959)23-0610
FAX(0959)23-0611

右記URLから
ご注文できます

年間目標

「出向いて行く教会」
となる

福岡カリタス支援金への募金のお願い

昨年10月21日付で、福岡カリタスが設置され、本年3月には福岡カリタス委員会が設置されました。
＜福岡カリタスが行う主な業務＞

- ①主に福岡教区内で、物質的、精神的に困っている人、孤立している人たちに手を差し伸べます。あるいはそうした人たちを支援している団体（草の根的に活動している団体）の活動を補助する。そのための経済的な支援も行います。
 - ②大規模災害時の緊急支援活動を行います。
 - ③以上の活動を行う資金のため、前身である災害支援室の基金を受け継ぎ、年に一度、募金の呼びかけを行います。
- つきましては、福岡カリタスとして初めての募金を計画していますので、ご協力をお願いいたします。
- 1 募金の名称 「福岡カリタス支援募金」
 - 2 募金受付期間 7月4日(土)～7月26日(日)
 - 3 募集単位 各小教区
 - 4 募金方法 所定の封筒により募金してもらう。
 - 5 募金の送金方法
- ①募金は小教区でまとめ、福岡教区「払込振込票」により、お振込みをお願いいたします。
 - ②通信欄には「福岡カリタス支援募金」と記載してください。
 - ③振込料は小教区でご負担願います。

WYD（世界青年の日・世界大会）in ソウル招待イベント
韓国舞踊と K-POP のタベ

2027年にソウルで開催されるWYD（ワールドユースデー）に向け、ソウル大司教区青少年局主催で行われます。※詳細はQRコードよりご確認ください。

- 第1回公演 7月31日(金) 18時～アクロス福岡円形ホール
第2回公演 7月31日(金) 20時～同上
第3回公演 8月1日(土) 11時～
熊本信愛女学院中学高等学校アリーナ
第4回公演 8月1日(土) 18時～ 福岡雙葉学園講堂
第5回公演 8月2日(日) 15時～ 新田原教会聖堂（北九州）
- 【問合せ先】 ☎080・8835・2486 キム・ソンチョン神父

教区和田墓地 北九州地区墓地
8月墓地ミサ中止のお知らせ

毎年8月に行われていた墓地ミサは、近年の命にかかわる猛暑を鑑み、今年から中止となりました。墓地は開放しておりますので、それぞれでお参りください。
※詳細は教区ホームページか、右記QRコードよりご確認ください。

福岡教区ハンドブック2026 担当者交代のお知らせ

- P.110 福岡教区直轄部門とその担当者 エキュメニズム
中村 彰 神父 → 船津 亮太 神父
P.103 福岡教区宣教司牧評議会 北九州地区信徒代表
緒方 久 → イム・ジョンファン

筑後地区宣教司牧評議会共催
カトリック平和旬間講話会

キリストのうちにともに苦しみ、ともに喜ぶ

- 【講師】 成井大介司教（カトリック新潟教区）
【日時】 8月2日(日) ミサ9時 講話10時30分
【場所】 久留米教会 聖堂
【参加費】 無料（自由献金）
【主催】 久留米教会ピース9の会
【問合せ先】 ☎0942・32・8011 久留米教会

— 召命を共に祈る会 —

- 福岡地区 7月21日(火) 13時30分～ 大名町教会
【問合せ先】 ☎090・6422・2257 (山口)
北九州地区 7月11日(土) 14時～ 小倉教会
【問合せ先】 ☎0949・24・9905 (藤井)
熊本地区 7月未定
【問合せ先】 ☎096・352・3030 (手取教会)

— 各種団体の定例会 —

詳細につきましては、福岡教区ホームページ「教区報7月号」、または右記QRコードからご確認ください。



福岡教区広報室アドレス
https://fukuoka.catholic.jp
E-mail: cdf-kouhou@nifty.com

案内板

会合と催し

7月のこよみ

2026 日本カトリック平和旬間 賛同企画
福岡教区主催「2026 平和を祈る集い」
テーマ：平和の時 武力によらない平和を目指して

【日時】 8月11日(火・祝) 10時～16時30分

【場所】 カテドラル大名町教会

【内容】 右記QRコードよりご確認ください。



「平和」をテーマに絵・俳句・川柳・短歌・作文を募集しています。作品は当日、大名町教会講堂もしくはロビーに掲示します。(〆切7月31日)

【応募先】

- ①郵送 〒810-0028 福岡市中央区浄水通 6-28
教区本部事務局「平和を祈る集い 作品受付窓口」
- ②Eメール cdf-kouhou@nifty.com
送信時件名「平和を祈る集い 作品応募」

真命山諸宗教対話センター - 祈りの集い -

年間テーマ：祈りの人々と出会う「主は御自分の親しい人に御旨を示される」(詩編25・14)

日時：7月9日(木) 10時～15時

内容：エステル：民のために立つ人
「わたしのために祈ってください」

次回：9月10日(木) ※8月は休み

内容：ヨブ：神の神秘において神を認める
「あなたのことを耳にしていたが」

問い合わせ先：真命山諸宗教対話センター

☎0968・85・3100 FAX 0968・85・3186

熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

E-mail shinmeizan@gmail.com

☆個人またはグループでの黙想会、研修会も歓迎いたします(要予約)

集いの詳細は、
各問合せ先に
お尋ねください。

- 美野島司牧センター
ホームレスの方々に温かい食事と衣類 毎週火曜日10時
ホームレス支援炊き出し
第2・4金曜日
調理14時から 夜回り21時
路上からアパートに入居した方を訪問 第2土曜日14時
【問合せ先】 ☎092・431・
- ミニアサロン大濠
養成センター
第1・第3水曜日10時
【問合せ先】 ☎092・753・
- みことばのお弁当
2026年度「幸いの宣言」
第4木曜日10時
【問合せ先】 ☎092・753・

- 1419 ジョンソン・デソーザ神父
大濠カトリック会館・宣教養成センター
ミサ(場所) 大濠カトリック会館(問合せ先) ☎090・9568・0076(野川)
- 聖ヨアキムと聖アンナ記念日の祈り会
【日時】 7月26日(日) 14時
ミサ(場所) 大濠カトリック会館(問合せ先) ☎090・9568・0076(野川)
- 笹丘教会 いっくしみ深い御父を讃える集い
【日時】 8月7日(金) 15時
17時ミサ(司式) 遠山満神父・聖アウグスチノ修道会(場所) 笹丘教会(問合せ先) ☎092・211・2521(平)

編集後記

毎年この時期、教区司祭の黙想会が5日間にわたって行われます。午前は講師の講話を聞き、午後はそれぞれが個人黙想の時を過ごされます。私も学生時代、毎年夏の黙想会に参加していました。教室の壁に掲示されたポスターの申込み欄には、私を含む信

和の元后聖マリアの集い
※ロザリオ持参のこと

ようこそ福岡教区へ！

東 遥希神父（神言修道会）

「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください」
Này con đây, xin hãy sai con. (イザヤ 6:8 Isaia 6:8)

Vui lòng
xem toàn
văn bản
tiếng Việt
tại liên kết ở trên ↑



このたび福岡教区ヨゼフ・アベイヤ司教様より任命を受け、伊万里教会と多久教会の主任司祭として着任いたしました、神言修道会のヨセフ東遥希です。どうぞよろしくお願いいたします。

ベトナム出身で、中学校卒業後、来日しました。南山国際高等学校に入学し、その後、長崎南山高等学校に転校して卒業しました。九州はとてものなじみ深く感じます。南山大学で神学を終え、司祭叙階後は名古屋教区の南山教会に派遣され、初任命の務めを担ってまいりました。

家庭は代々カトリック信者で、親族の中には司祭や修道女も多くおられます。信仰に熱心な両親のもとで育ち、幼い頃から神様の愛と教会の大切さを学びました。母からは、私が3歳の時に故郷ニャチャンのカルメル会修道院へ連れて行かれ、「どうかこの子を主の福音を告げ知らせる道具としてください」と神様に捧げられたことを聞いています。その祈りが、自分の召命の原点になっているように感じています。

司祭叙階の際には、イザヤ書6章8節の「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください」というみ言葉をモットーに選びました。自分の力ではなく、主の招きと導きに信頼して歩みを委ねてきました。今回、佐賀の地へ派遣されたことも、主の新たな招きとして受け止めています。

伊万里教会、多久教会の皆さんとともに祈り、ともに福音を生きる共同体を築いていきたいと願っております。どうかお祈りのうちに支えていただければ幸いです。主の豊かな祝福が皆さんの上にありますように。

Con là Giuse Nguyễn Thành Hy Dòng truyền giáo Ngôi Lời (Azuma Haruki, SVD), vừa được Đức Cha Josep Maria Abella Battle, Giám mục Giáo phận Fukuoka, bổ nhiệm làm linh mục quản xứ Imari và Taku.

Quê hương yêu dấu của con là Việt Nam và lần đầu khi con đặt chân đến nước Nhật là khi tốt nghiệp trung học cơ sở. Sau đó theo học tại Trường Trung học Quốc tế Nanzan, và chuyển về Trường Trung học Nanzan Nagasaki rồi tốt nghiệp tại đây. Vì thế, vùng Kyushu luôn mang lại cho con cảm giác thật gần gũi và quen thuộc. Sau khi hoàn tất chương trình thần học Roma tại Đại học Nanzan, con được lãnh nhận thiên chức linh mục và bài sai đầu tiên phục vụ tại Giáo xứ Nanzan thuộc Giáo phận Nagoya trong rất nhiều bổ ngữ trên con đường rao giảng tin mừng mới được lãnh nhận.



アベイヤ司教伊万里教会公式訪問での集合写真
東神父（中央司教の左斜め後ろ）

(…continued)

福岡教区セクハラ対応窓口

セクハラを受けたら、見かけたら、ご相談ください。ひとりで悩まず、早めに相談

セクシュアル・ハラスメント相談窓口

電話 080-2694-4182

受付時間 月～金（祝日を除く）

10:00～12:00 13:00～16:00